

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	分析アジア哲学を核としたアジア諸大学ネットワークの展開（台湾派遣）
代表者名	出口康夫
事業概要 (600 字程度)	<p>2019 年 3 月 17～25 日に、哲学専修の学部生および大学院生、OD5 人を台湾に派遣した。派遣学生は、他経費で参加した学生等（計 5 名）・担当教員（出口）と合流し、以下の会議・WS に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3 月 18～20 日：国立政治大学にて An International Conference on Phenomenology and Chinese Philosophy に参加 ● 3 月 19 日：国立中央研究院にて Language, Cognition and Society, New Development in Contemporary Western Philosophy に参加 ● 3 月 21 日：東海大学にて Tung Hai-Kyoto University Graduate Exchange Workshop in Philosophy 2019 に参加、派遣学生の 1 人が発表。 ● 3 月 22 日：国立陽明大学にて Mini YangMing-Kyoto-Workshop に参加、派遣学生の 1 人が発表。 ● 同日 3 月 22 日：国立台湾大学にて 2nd Joint Workshop of NTU-Kyoto on "Self and Subjectivity: from Multi-cultural and Interdisciplinary Perspectives" に参加。 ● 3 月 23 日：国立台湾大学にて NTU-Kyoto U Graduate Conference に参加、派遣学生全員が発表ないしコメンテーターを行う。
成果の概要 (800 字程度)	<p>今回の派遣では、派遣者は、ほぼ毎日、何らかの学会やワークショップに参加した。これらの学会のテーマは広い意味での分析アジア哲学に関わるものであったが、その内容は多種多様であったため、派遣学生たちが多くのそして多岐にわたる刺激を受けることができた。以下では、特に派遣学生による研究発表の行われた三つの会議に絞って、成果を報告する。</p> <p>東海大学でのワークショップは、同大学の学生の中にはあまり哲学に精通していない者も多いと事前に聞いていたこともあり、発表者の学生たちは自身の発表をわかりやすく噛み砕いて説明することをいつも以上に意識していた。この経験は、今後学生たちが自身の授業等で初学者たちに対して哲学を教授するための良い訓練となったはずである。</p> <p>国立陽明大学でのワークショップでは、京都大学から 2 名（派遣学生一名含む）が発表を行なった。この 2 名の発表は、分析アジア哲学の二つの柱（「分析哲学」と「アジア哲学」）の一つである分析哲学に関するものであった。京大哲学で分析哲学を学んでいる学生の研究動向とその研究レベルを相手先に知らしめたことで、今後のさらなる交流の呼び水となったと思われる。</p> <p>最後の国立台湾大学との合同大学院生会議は、昨年度に引き続き第二回目のものであった。この会議では、日台双方の大学院生が、分析アジア哲学をはじめとする、自分自身の研究課題について英語での発表を行った。京大の参加者の中には、昨年度も台湾大学での大学生会議に参加した学生が多かったが、彼らは昨年度と比較した際の自身の発表技量の向上および研究内容の深まりを強く実感したと思われる。このような成功体験によって、学生は、確かな自信とさらなる向上心、そして海外でアカデミックな活動に参加することへの積極性を身につけることが期待できる。</p>